

「東風は西風を圧倒したか」：世界史の中の「1968」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大野, 旭 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026389

国際シンポジウム・その一

「東風は西風を圧倒したか」

——世界史の中の「1968」——

2018年は世界を揺るがした「1968」の50周年にあたる、節目の年である。

この「1968」については、40周年にあたる2008年に藤原書店の学芸総合誌・季刊『環』は「世界のなかの68」と題する特集をくみ、翌年に同書店から『1968年の世界史』が上梓されている。近年では、西田慎先生と梅崎透先生による共編著『グローバル・ヒストリーとしての「1968」』（ミネルヴァ書房, 2015）が上梓され、同書はベトナム反戦運動とフランスの五月革命、プラハの春、日本の学園紛争などに対する分析を通して、グローバルな歴史的流れが形成された意義について論じている。また、直近の岩波書店『思想』（no.1129, 2018）も「1968」の特集を組み、日本とアメリカ、西洋諸国を舞台として世界史の中の「1968」を振り返っている。

一方、従来の諸研究はどれも中国文化大革命を取り上げ、そしてそれと「1968」との関連性について言及しながらも、中国と世界との関係については、まだ解明していない課題をわれわれに残した。もし、文化大革命を一つの革命の震源地と見なすならば、世界各国へどのように「揺れ」ていったのか。各国もまた「世界革命のセンター」を自認する中国とどのように共鳴したのか。あるいは呼応せずに、単に架空の連携を想像していたのか。これらの問題について議論し、解明する必要がある（岩波書店『思想』特集：過ぎ去らぬ文化大革命——50年後の省察, no.1101, 2016）。

中国は社会主義を建設し、資本主義の道を歩む者を否定し、打倒の対象とした。そして、「より良い世界を創出」しようとして、人民戦争論を武器に、世界に革命を輸出し、暴力を革命として肯定した。同時代のアメリカとフランス、そして日本など西側社会では反戦運動・公民権獲得運動・反人種差別・異議申し立てなどが起こり、そしてチェコスロヴァキアや東ドイツとの対話も模索されたものの、両者の間に横たわる溝を埋めることはできなかった。これは、中国の紅衛兵たちが国内の「走資派」を打倒しながら、同時に世界革命を夢想する中で、資本主諸国の青年たちとのコミュニケーションがすれ違っていった現象と同質であろう。そして、「1968」の終焉に伴い、当事者たちは社会主義の勝利を確信していたとしても、1972年に実現された米中握手は実際、その後の資本主義の勝ちの前兆であった、との解釈も成り立つ。西側諸国における大学の大衆化とソ連の崩壊、中国の「改革開放」と1989年の「天安門事件」のような反動もまた「1968」から生まれた現代史の流れである。果たして毛沢東が唱えていた社会主義陣営からの「東風」は西側の「西風」を圧倒したのか。各国それぞれの「1968」と「世界革命のセンター中国」との関連性はどのようなもので、如何なるものであったのか。このようなラインにそって、国際シンポジウムを開催した。

開催日：2018年7月14日 09:30～18:00

場 所：学習院女子大学2号館236教室

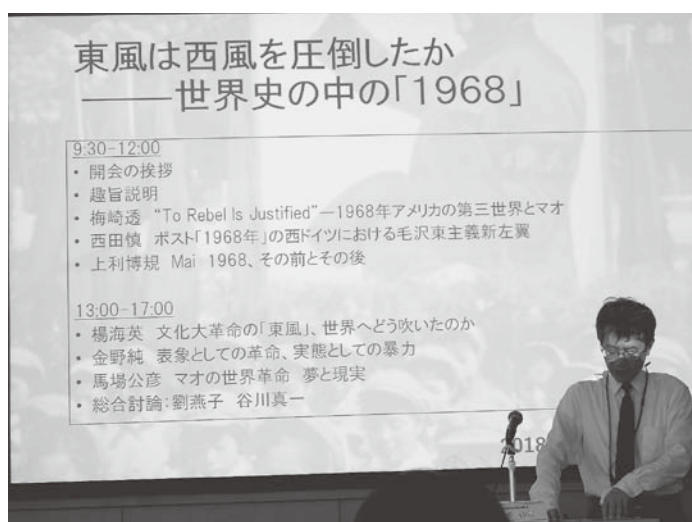
主 催：静岡大学人文社会科学部・アジア研究センター & 学習院女子大学国際学研究所

開会の挨拶：田中伸司 09:30～09:40

趣 旨 説 明：楊海英（＝大野旭 静岡大学人文社会科学部教授・アジア研究センター長）

09:40～09:55

1. 梅崎透（フェリス女学院大学文学部教授） 10：00～10：40
「“To Rebel Is Justified” ——1968年アメリカの第三世界とマオ」
 2. 西田慎（奈良教育大学教育学部准教授） 10：40～11：20
「ポスト「1968年」の西ドイツにおける毛沢東主義新左翼——Kグループを例に——」
 3. 上利博規（静岡大学人文社会科学部教授） 11：20～12：00
「Mai 1968、その前とその後——文化と知の変質をもたらしたもの」
 4. 楊海英（静岡大学人文社会科学部教授） 13：00～13：40
「文化大革命の「東風」、世界へどう吹いたのか——紅衛兵から知識青年へ、そしてジャングルのゲリラ」
 5. 金野純（学習院女子大学准教授） 13：40～14：20
「表象としての革命、実態としての暴力——68年文革の両義性をめぐって」
 6. 馬場公彦（岩波書店編集局部長） 14：20～15：00
「マオの世界革命 夢と現実——インドネシア・中国・日本」
- コメント 1：劉燕子（作家・中国現代文学作家） 15：30～15：45
コメント 2：谷川真一（神戸大学国際文化研究科教授） 15：45～16：00
総合討論 16：00～17：00



田中伸司副学部長によるご挨拶



シンポジウム開催風景